

私の未来を描く～偉い人じゃなくてもいい～

フウ カヨウ

皆さん、こんにちは、中国出身の馮嘉洋と申します。今日は「未来」について皆さんにお話をさせていただきます。

たった一度の人生を、皆さんはどう生きておられますか。私は一人っ子として、平凡（へいぼん）だけれど幸せな家庭で生まれました。子供のころ、私はずっと先生と家族に褒められて、良い子と呼ばれました。そして今までの人生、私はずっと両親の庇護（ひご）のもとに育ってきました。小学、中学、高校、大学、あまり大きな挫折（ざせつ）にぶつかったことがないまま、順風満帆（じゅんぷうまんぱん）な日々を過ごしました。

その時、将来の私はきっと偉い人になりたいと思っておりました。偉い人というのは、別に主席（しゅせき）みたい政界（せいがい）の首脳（しゅなん）などの人じゃありません。ただし、両親のように、学校から卒業して、結婚して、子供を育て、毎日朝から晩まで仕事に追われ、一目で晩年が見えて、私はこのような平凡な人生をすごく怖がります。ですが一体何になりたいという目標もなく、将来にも不安が多かったです。

そして、コロナが起ってからこの二年間、私はあまり実感がありません。余儀なく留学を延期して、私の人生で初めて予想以外のことが出てきました。世界中ひっきりなしな激変（げきへん）を目のあたりにしまして、大勢の人々が死んでしまい、国々でも多くの問題が発生しました。そして、毎日更新され続けての疫病（えきびょう）のデータを見て、命を失った人たちに悲しい思いをしています。更にはたくさん若い医者が他人の命を救うため、自分の命を落としたことを聞きましてから、私はとても悲しいです。平時の彼らはただ平凡な人ではあるけれども、疫病（えきびょう）の前に、彼らは厚い防護（ぼうご）服を着て、大きなメガネをかけて、白衣（はくい）の天使になりました。

このような彼らは、名が後世（こうせい）まで伝えられるの偉い人じゃないけど、人々の心の中、彼らは星のように、平凡だけれど、きらめく光がずっと輝いています。私の両親もきっと、彼らの平凡な仕事に通じて、たくさんの人を幸せにしてくれたんだろう。

私は成長に伴って、世界は想像と予想以外ということをだんだん了解しました。だから、今の私にとって、未来の私は偉くならなくてもいい、私にとって一番重要な家族の期待（きたい）を背負（せお）って、たくさんの方が幸せを感じることをして、立派に生きているほしいです。

以上です。ご清聴ありがとうございました。